

各投資家からのコメント

Polyuse社は、建設現場に迫る人手不足の課題に対して真摯に向き合い、様々な関係者を巻き込みながら課題解決に全力で取り組むスタートアップ企業です。当社チームは、ハード・ソフト・マテリアルと専門性の異なる多様な人材で構成されながらも、エンゲージメントが高く、強いチーム力によって、他社の追従を許さないスピード感で事業を進めています。建設業界の未来がPolyuse社のテクノロジーでアップデートされる瞬間を強く期待しております。

ユニバーサルマテリアルズインキュベーター ディレクター 土屋 亮 氏

公式サイト: <https://www.umi.co.jp/>

建設業界は、就業者不足・高齢化等大きな課題を抱えており、イノベーションが必要だと考えております。Polyuseは、建設・土木用3Dプリンターに係るハード/ソフト/マテリアル全てを内製化しており、この難題に真正面から真摯に向き合っています。課題を抱える業界に対し、3Dプリンターに係る各領域に精通したメンバーが集まってきており、このチームであれば、大きなイノベーションを起こしてくれると期待しており、我々も全力で伴走支援して参ります。

SBIインベストメント 投資部 次長 小野 浩之 氏

公式サイト: <https://www.sbinvestment.co.jp/>

Polyuse社はその提供サービスやテクノロジーにより、建設業界における「施工現場作業員の半減」や「工期半減」等の実現を目指しており、現場の人手不足問題等の解決に大きく貢献し得ると見えています。また、グローバルで成長が著しい3Dプリント建設市場において、Polyuse社は国内ではトップランナーでもあり、当社は今回の出資やバリューアップ支援等を通じて、Polyuse社による国内外建設業界のDX(デジタルトランスフォーメーション)化の先導に貢献していきたいと考えております。

Emellience Partners 代表取締役CEO 千葉 真介 氏

公式サイト: <https://www.emellience.com/>

Coralとしては2回目の出資となります。シードで出資させていただいたときから、Polyuseの建設用3Dプリンタはハード・ソフト・素材と全ての面で大きく進化し、全国で多くの施工実績を積み重ねています。今回加わってくださった強力な投資家の皆様の協力も得て、日本の建設業界を大きく変えていくと確信しています。

Coral Capital Founding Partner 澤山 陽平 氏

公式サイト: <https://coralcap.co/>

前回ラウンドに引き続きフォローで投資をさせていただきました。この2年、彼らの行動力と課題解決力により、ハード、ソフト、マテリアルあらゆる面においてプロダクトは大きく進化を遂げ、施工実績も積みあがっています。3Dプリンターが建築や土木の現場において重要な一翼を担う日が近づいていることを実感しており、ワクワクしかありません。

池森ベンチャーサポート事業統括責任者/公認会計士 山岸 朝典 氏

掲載サイト: <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC2818D0Y1A620C2000000/>

弊社はPolyuseの創業当時(2019年)から共に建設用3Dプリンタを用いた施工の自動化を目指してきました。当初は「絵に描いた餅」だった現場での適用も、現在ではそう珍しくなくなりつつあります。その間のマシンの進化には本当に目を見張るものがあると思います。弊社でも2022年度には3件の工事現場にてPolyuse社製のマシンを活用させて頂きました。ガラケーの全盛期から10年そこそこでスマートフォンが当たり前の世の中になったように、施工の自動化の流れも必然で大方の想像よりも早く進むのではないかと考えております。折しも2023年度は BIM/CIM元年です。国交省主導で計画段階から施工までのデータの3次元化を推し進めるBIM/CIMと、3次元データに基づいて射出する建設用3Dプリンタとの相性は良好であると考えられます。弊社では「株主の立場」と「施工者の立場」から今後とも3Dプリンタを用いた施工方法の確立とPolyuseの発展をサポートしていく所存です。

吉村建設工業 取締役 吉村 成一 氏

公式サイト: <https://www.yoshimurakensetu.co.jp/#>

建山和由アドバイザーからのコメント

Polyuseは、国産の3Dプリンターを一から作り上げ、廉価で使い易いマシンとシステムを提供しています。この動きは、国内の建設改革を大きく後押しする取り組みと考えています。2016年国交省は、きつい、きたない、きけん、所謂3Kで象徴される建設業の体質を抜本的に改善すべくi-Constructionをスタートさせました。その取り組みの主要な柱であるICTの活用による省人化と効率化は大規模工事では実現されつつあるものの、日本のインフラ整備の7割以上を占める(金額ベース)地方自治体発注の中小の工事ではICTの導入に躊躇しているケースが多く、国でも地方の中小の工事における普及に向けて、様々な取り組みを進めています。そのような状況の中、Polyuseの3Dプリンターは、すでに地方の中小の工事で導入され、ローカルの建設工事でも使える技術として進化しています。これは、i-Constructionの目標を実現する意味で、重要な成果と捉えています。この流れが今後ますます進展し、建設用3Dプリンターが様々な工事で便利で使い易い道具として、当たり前のように使われるようになることを期待しています。

建山 和由 氏

立命館大学総合科学技術研究機構教授。建設施工にICTを活用して生産性向上や安全性の改善を目指す研究に取り組み、それを社会的な取り組みに広げる活動を行っている。長きにわたり建設施工の機械化や情報化施工を研究されてこれ、国土交通省においては情報化施工推進会議委員長、i-Construction委員、公益社団法人土木学会においては建設ロボット委員会委員長などの要職を歴任され、現在国土交通省が推奨するi-Constructionの礎を築いて来られた第一人者。

Polyuse/パートナー企業の声

建設業でありながら、建設業に捉われていないベンチャー企業であり、建設業界の救世主になると信じています。我々の取り巻く建設業界は人手不足と言われて久しいですが、生産性向上や省人化施工なども重要になっていますが、何よりも技術力の向上、魅力的な建設技術などが大きな建設業のキーになると信じています。3Dプリンタを通して、我々がワクワクする未来・新しい建設業を創造してくれているPolyuseさんには期待しかありません。

白石建設工業 代表取締役社長 白石 尚寛 様

2022年9月、愛媛県新居浜市にて国土交通省公共工事を実施

公式サイト: <https://www.shiraishi-inc.co.jp/>

『可能性』。今、建設業に必要なのは正に可能性であり、そしてその先の希望を実現できるかどうかです。日本の建設業界は未曾有の人手不足、物価高です。世界を見れば未だに未整備な橋や道路、河川整備などの環境で、強度が低く安全ではない家に居住している人達が山ほどいます。国内外でのこの諸課題を打開する、その可能性がPolyuseの3Dプリンターにはあると考えています。Polyuseが建設業に新たなイノベーションを起こし世界を変えてくれる事を実際に共に3Dプリンターを活用して、15年間現場の最前線でいる私は確信しています。

新庄砕石工業所 取締役 柿崎 赳 様

2022年8月、山形県新庄市にて国土交通省・県土木公共工事を実施

公式サイト: <https://www.shinjosaiseki.com/>

振り返ると、この業界で40年近く従事しておりますが、時代の変化に対応すべく、人材育成や新技術等、試行錯誤しながら業務に追われる日々を過ごす中、ポリウスの皆様に出会い、改めてモノづくりの楽しさやワクワクする気持ちを思い出しております。

建設業に旋風を巻き起こす皆様に敬意を表すると共に、革新的な3Dプリンタ技術で新しい時代を切り拓く瞬間を共有できる事に感謝しています。

木下建設 専務取締役本部長 山田 裕明 様

2022年12月、和歌山県串本町にて国土交通省公共工事を実施

公式サイト:<http://www.kinosita-kensetu.co.jp/index.html>